

各学部の教育研究上の目的について

大学設置基準(昭和31年10月22日文部省令第28号)第2条の規定に基づき、九州大学の学部又は学科等ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を下記のとおり定めていますので、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2の規定に基づき、公表いたします。

学部名	学科、コース、分野名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
文学部人文学科		本学部は哲学・歴史学・文学・人間科学の視点から人間の在り方の全体を捉える知の営みに触れることを通して、適切な思考力と表現力、総合的なものの見方を見につけた人材を組織的に養成する。
	哲学コース	東西の文化的伝統の中で人類が生み出してきたさまざまな精神的所産を厳密かつ正確に読解し、また、自ら思索することを通して真理の探究を行い、現代社会の様々な諸問題に対して根源的な考察を提示できる人材を養成する。
	歴史学コース	特定の地域と時代における社会の特質と相互間の共通性を、批判精神をもって実証的に、また、理論的に解明し、独自の視点から、ある特定の地域と時代の社会像の復原ができる人材を養成する。
	文学コース	古典から現代までの具体的かつ多様な文学作品や言語に関する文献を精査解読し、言語そのものについて、あるいは作品の背景をなす文化、さらには文学そのものについて省察できる人材を養成する。
	人間科学コース	人間の行動や心理、および個人と社会の相互作用に関心を寄せ、人間・社会研究の視点から現代社会のさまざまな現象を包括的に把握して、産業化、情報化、高齢化、国際化などをめぐって生じる問題の解決ができる人材を養成する。
教育学部		本学部は、人間に対する深い洞察と共感的態度を基盤に持ちながら、人間と人間のふれあう社会のさまざまな領域において創造的に問題解決できる人材を養成する。
法学部		<p>本学部は、現代社会の法学・政治学的諸問題を多様な観点から読み解き、それに対応する能力を育成することを目標に、法学・政治学教育を通じて、地域社会、日本社会、国際社会にあってリーダーシップを発揮しうる創造性豊かな人材を組織的に養成する。</p> <p>上記の目的を達成するために、次の各号に掲げる具体的目標を設定するものとする。</p> <p>(1) 高い人間性、社会性の陶冶</p> <p>科学技術等の進展により、人間的価値が相対化されがちな現代社会にあって、高い人間性を追求し、社会から学ぶ姿勢と社会に働きかける姿勢の双方を持った人材を育成する。</p> <p>(2) 高い国際性の育成</p> <p>生活のあらゆる面で進行するグローバル化の潮流にあって、複眼的な視野を持ち、国家の枠を越えて発想できる国際性豊かな人材を育成する。</p> <p>(3) 専門知識を自立的・主体的に学ぶ基盤的能力の育成</p> <p>法学・政治学領域の専門的な知見の習得にあたっては、生涯学習の基礎となる学識を十分に習得し、先端的な領域にも開かれた学問観を育成する。</p> <p>(4) 柔軟で批判的・創造的な思考力の涵養</p> <p>法学・政治学領域の基本的学習を通じて、歴史や現実社会への深い知見に支えられた、創造性豊かな理解力・発想力、さらには情報発信能力を涵養する。</p>

経済学部		本学部は、経済学の基礎的学識と幅広い教養とともに、社会性と国際性とを身につけることによって、様々な分野で指導的な立場で活躍できる人材を養成する。
	経済・経営学科	現代の経済社会に、経済分析、産業分析、企業分析という3つの側面から多角的、多層的、総合的にアプローチし、経済学・経営学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につけることによって、現代経済社会が直面する諸問題に的確に対処し、その解決策を見出していける人材を養成する。
	経済工学科	理論モデルを学習し計量的分析手法を修得して現代経済の諸現象を多方面にわたって検討することに加えて、課題解決へむけた創造的な思考法を身につけることによって、経済を総合的に捉えていく能力を修得した人材を養成する。
理学部		理学は、自然界に存在する真理を明らかにして、体系的に説明する普遍的法則を構築する学問である。本学部は、教育研究を通じて基礎から思考する能力を涵養し、専門的知識・技術および方法論を身に付けた、社会の広い分野において貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。
医学部		本学部は、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための人材を組織的に養成する。
	医学科	医学に関する知識・技術の教育を基盤にし、医の倫理に徹し、旺盛な探求心を有する医療及び医科学研究に携わる人材を組織的に養成する。
	生命科学科	人間科学としての医生命科学へ寄与するために、生命医科学と医工学の集中的教育によって、人間科学に立脚した医学研究に携わる人材を組織的に養成する。
	保健学に関する知識・技術の教育を基盤にし、国民の健康衛生を支援するための保健学及び保健学研究に携わる人材を組織的に養成する。	
歯学部歯学科		歯学部における教育は、高い倫理観、豊かな人間性、ならびに高い国際性を有する高度な専門知識と臨床能力を備えた歯科医師あるいは歯学研究者を養成し、口腔の機能改善と構築に幅広く貢献し、「口腔から全身の健康に貢献する」ことを実践することができ、国際的にも活躍できる指導的人材を育成することを目的とする。
薬学部		本学部は、医療に直接携わる薬剤師、薬の創製に関する基礎および応用研究者、さらにこれらの分野で指導的役割を担う人材を組織的に養成する。
	創薬科学科	医薬品の創製に関する基礎および応用研究者となる人材を組織的に養成する。
	臨床薬学科	医療従事者としての実践力を持った薬剤師となる人材を組織的に養成する。
工学部		工学は、物理学や化学などの基礎科学分野における原理と法則をもとに人類文明の持続的発展を恒久的に探究する学問である。本学部は、エネルギー・資源・物質・環境・システムに関する専門基礎知識と様々な事象に対する理解力と説明能力を教授育成するとともに、幅広い教養と視野をもって工学に携わる技術者・研究者を組織的に養成する。
	建築学科	建築学は、未来の建築や都市を構想し、歴史・文化の継承とより良い人間環境の形成を担う学問である。本学科では、建築文化を歴史的に顧みながら人間の多様な生活に密着した空間を作り出すために、建築の計画理論と設計方法、環境技術、構造技術そして材料と施工技術など、多様な要素を総合する能力と芸術的感覚を有する人材を組織的に

	養成する。
電気情報工学科	電気情報工学は、電気エネルギーとしての利用と、電子としての高速性、微量性を生かした制御、通信、計算および情報蓄積・検索などの信号・情報の処理とに関する科学技術を幅広く探究する学問である。本学科では、電気情報技術の原理を理解し、これを応用して、この分野で新しい技術を開拓、発展させることができる技術者・研究者を組織的に養成する。
物質科学工学科 (化学プロセス・生命工学コース)	化学プロセス・生命工学は、物理化学、反応工学、生物化学工学、物質移動工学、伝熱工学、流体力学、装置設計学、プロセスシステム工学で構成される化学工学を基礎とする学問である。本コースでは、環境・エネルギー、新規機能性材料、バイオテクノロジー・高度先進医療、生産プロセスに関する専門知識を教育研究し、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者を組織的に養成する。
物質科学工学科 (応用化学コース)	人類が豊かで持続的発展が可能な社会を実現するには、優れた材料の創出と活用が必要不可欠である。本コースでは、生活の基盤をなす材料の物性を原子・分子のレベルで理解・制御し、物質に関する科学技術の新領域を創出し、地球環境との調和ならびに豊かな物質社会と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者を組織的に養成する。
物質科学工学科 (材料科学工学コース)	未来社会を支える科学技術の基盤は素材技術の革新にある。本コースでは、種々の物質・材料製造に関わる物理的、化学的、反応工学的原理に基礎を置き、新しい特性を持つ素材の創成、新材料の特性の制御と評価、高効率で環境に調和したプロセスの開発・設計などを含めた、物質プロセス工学に貢献する研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。
地球環境工学科 (建設都市工学コース)	建設都市工学は、構造物の設計・建設に関する技術展開と都市問題から環境問題に至る社会基盤システムの構築を体系的に探究する学問である。本コースでは、社会基盤や都市環境システムの再構築や創造に対応できる専門的基礎知識と技術を備え、かつ柔軟な応用力や実行力を身につけた人間性、国際性豊かな技術者・研究者を組織的に養成する。
地球環境工学科 (船舶海洋システム工学コース)	船舶海洋システム工学は、海洋のもつ交通・輸送機能、生物資源や鉱物資源の生産機能、居住や備蓄のための空間機能などの社会的・経済的に有用な機能を発展的に活用する学問である。本コースでは、世界の造船技術の継承発展を図るとともに、海洋利用産業の新しい時代を担い得る広い視野をもった研究者と技術者を組織的に養成する。
地球環境工学科 (地球システム工学コース)	地球システム工学は、持続可能な社会と産業活動の基盤となるエネルギー資源と鉱物資源の探査・開発生産・利用・循環、さらに環境修復・地殻防災・地球環境保全技術などを総合的に扱う学問である。本コースでは、これらの科学技術に関する専門基礎知識と、様々な事象に対する理解力と説明能力を教授育成するとともに、地球規模での発想力と行動力を備えた技術者・研究者を組織的に養成する。
エネルギー科学科	エネルギー科学科は、近代文明の前途に少なからぬ不安の影を落としつつあるエネルギー・環境問題の解決に携わる気鋭の技術者・研究者を重層的に育成する。既存の産業名または工学上の分類名を冠する他学科に対し、“課題名”を含意した「エネルギー科学」を掲げる本学科では、未来社会を展望する構想力に富み、且つ高次元の公心、見識、品格を備えた第一級の人材を育成する。
機械航空工学科 (機械工学コース)	機械工学は、機械要素や機械システムなどの「ものづくり」の技術を追究する学問である。本コースでは、自然法則の基礎理論を理解し、社会のニーズに応え、制約された条件下で社会や自然への影響を常に考慮しつつもの作りを行う能力と、文化の枠を越えた世界的な価値観を有

		<p>する創造性豊かな技術者・研究者を組織的に養成する。</p>
	<p>機械航空工学科 (航空宇宙工学コース)</p>	<p>航空宇宙工学は、人類の活動領域拡大に必要な先進工学分野を開拓する学問である。本コースでは、力学を基礎とした工学理論や、航空宇宙機関特有のシステム工学に関連する基礎学問を修得し、航空宇宙機の運用環境拡大によって生ずる課題を発見・解決する能力および幅広い教養と総合性、国際性を身に付けた技術者・研究者を組織的に養成する。</p>
<p>芸術工学部</p>		<p>技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。</p>
	<p>環境設計学科</p>	<p>環境設計とは人間と環境の共生という理念にたつて、両者の関係のありかたを考察して、具体的な提案をすることである。エコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった近年の懸案に応えるため、芸術工学の基本理念にたつて技術、人間、社会、自然に関する多角的な知識を集結して考察し、芸術的センスあふれる建築、都市、緑地、ランドスケープなどをデザインできる創造的な人材を、国内外の設計家資格に適合し国際的にも通用する枠組みの中で組織的に養成する。</p>
	<p>工業設計学科</p>	<p>人間を取り巻くものと、関連する多様な事象について、生活環境や社会活動に適合できるように計画・設計する創造活動である工業設計の専門家を養成するため、人と物的環境と社会の係わりについての幅広い教養と視野を身につけ、進展する科学技術に関する専門知識に基づく科学的・工学的思考力と、感性豊かな創造力・デザイン力・実践力を備えた総合的な設計能力を有する人材を組織的に養成する。</p>
	<p>画像設計学科</p>	<p>人間にとって価値の高い情報を、視覚的に明快かつ美的に構成し処理、伝達することを可能にするため、画像・映像などの視覚情報やその媒体などの情報環境における、多様な局面に対する設計や計画を行う画像設計の専門家を養成することを目標とする。そのために、人間の視覚を始めとする感覚特性や視覚情報の数理・物理的特質に関する科学的・工学的な知識と思考能力および視覚情報の主体的な処理能力をあわせ持つ、創造性の豊かな人材を組織的に養成する。</p>
	<p>音響設計学科</p>	<p>音文化に対する理解を深め、正しい評価を行い、人間に適合した音環境を創出し、さらに、音響情報の高度化、高品質化を推進することができる音響設計の専門家を養成するため、人間、社会における広い視野を有し、音に対する芸術的感性と音響科学技術に関する専門的知識を兼ね備え、総合的な設計能力を有する人材を組織的に養成する。</p>
	<p>芸術情報設計学科</p>	<p>インターネットや携帯電話が日常生活に普及した高度情報通信社会において、より創造的な人間生活とグローバルな世界の動きを結びつけながら、人間とメディアの関係を調整し調和のとれたメディア環境を科学的に計画し設計できる設計家を養成することを目的とする。そのため芸術や文化に対する鋭い感受性と深い理解を養い、コミュニケーションの形成に関する科学的・理工学的な専門知識を身につけ、来たるべき社会に向け新たな価値を創出し、広い世界に向け貢献することのできる総合力と企画力を備えた人材を組織的に養成する。</p>
<p>農学部生物資源環境学科</p>		<p>21世紀に予測される地球規模での食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献することは、農学に課せられた使命である。農学部では、農学の使命を達成するための多様な人材を育成することを目的として、農学関連諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊</p>

		<p>かな課題探求能力と課題解決能力を備えた人材を組織的に養成する。</p>
生物資源生産科学コース		<p>生物資源の有する機能の効率的利用、潜在能力の発掘、未利用資源の有効化、さらには農業・農村地域の発展と国土保全及び安全・安定的な食料の生産・流通システムの最適化並びに社会科学的観点からの市場機構の解明・創成に関する専門知識・技術を有する人材を組織的に養成する。</p>
	農学分野	<p>農学基礎の観点から、農学全般に関する専門知識と国際性を備えた指導力を修得させ、環境変動に対応する農作物の安定生産の実現、並びに自然環境に調和した持続的農業生産システムを創出し、国際的に貢献できる人材を組織的に養成する。</p>
	生物生産環境工学分野	<p>農業・農村環境の再生、創出、保全に向けた教育を視野に、土、水、気象に関する自然・社会科学の基礎学を修得させ、安定した食料供給に資する生産基盤の持続的な開発、保全、管理、及び自然環境と調和した、物質循環型の農村空間の創出に関わる人材を養成する。</p>
	生物生産システム工学分野	<p>安全で安定的な食料生産に関わる諸問題について、理工学的観点から問題解決に至る論理を探究する能力を備え、生物資源の最適生産システム・機械技術、高鮮度保持貯蔵・流通技術、安全確保技術に関する専門的知識・技術を有する人材を組織的に養成する。</p>
	農政経済学分野	<p>社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する専門知識と国際性を備えた指導力を修得させ、安全な食料・バイオエネルギーの安定供給と適正価格の実現、並びにそれを担う国内外の食料産業・地域経済社会の持続的かつ環境調和的発展に関わる人材を組織的に養成する。</p>
応用生物科学コース		<p>生物生産の総合的観点から、生命科学、食糧科学、及び環境科学に関わる専門知識と高度な技術を修得させ、生物が有する優れた機能と生産する物質の有効利用、並びに食糧、健康、医療、環境、資源、エネルギー等の諸問題に関わることができる視野の広い人材を組織的に養成する。</p>
	応用生命化学分野	<p>生命科学から環境科学までの分野において、化学的・物質的観点からの専門知識と高度な技術を修得させ、有用物質生産、新規生理活性物質や生物資源の開発と利用、動植物の保護管理、環境保全・修復を含む生物生産系の発展や、食料・環境問題の解決に携わる視野の広い人材を組織的に養成する。</p>
	食糧化学工学分野	<p>生物学、化学、工学を融合し、最新技術を駆使して食糧、健康、資源、環境、エネルギー等の諸問題を解決するための専門知識・技術と国際性・学際性を備えた指導力を修得させ、生理活性物質の探索・創製、食機能の解明と利用、高品質な食品の提供、微生物機能の解明と利用に携わる人材を組織的に養成する。</p>
地球森林科学コース		<p>生物学、化学、物理学、地学、社会科学に跨る幅広い学問分野を統合した地球森林科学教育を行い、森林資源の持続的生産・利用と人類の生存及び環境修復に寄与できる専門的知識を修得させるとともに、多様化する国内外の社会的要請に対応できる指導力ある人材を組織的に養成する。</p>
	森林機能制御学分野	<p>生物学、化学、物理学、地学、社会科学に跨る幅広い学問分野を統合した地球森林科学教育において、人類生存のための森林機能の制御に寄与できる専門的知識を修得させるとともに、多様化する国内外の社会的要請に対応できる指導力ある人材を組織的に養成する。</p>
	森林機能開発学分野	<p>生物学、化学、物理学、地学、社会科学に跨る幅広い学問分野を統合した地球森林科学教育において、森林生態系の未知の機能の開発に寄与できる専門的知識を修得させるとともに、多様化する国内外の</p>

		社会的要請に対応できる指導力ある人材を組織的に養成する。
	生物材料機能学分野	生物学、化学、物理学、地学、社会科学に跨がる幅広い学問分野を統合した地球森林科学教育において、人と地球環境に優しい森林資源の高度有効利用に寄与できる専門的知識を修得させるとともに、多様化する国内外の社会的要請に対応できる指導力ある人材を組織的に養成する。
	動物生産科学コース	動物生産科学に関する基礎及び専門知識と基盤技術、並びに本領域における課題設定能力と国際性を備えた指導力を修得させ、効率的な動物生産システムの構築と安全な動物性食糧の供給、動物資源の管理と高度利用、及び持続的動物生産に適う環境問題の解決に関わる人材を養成する。
	アニマルサイエンス分野	哺乳類及び鳥類等の動物資源の生産と利用に関わる生命科学、環境科学、食品科学の基礎及び専門的知識と技術を修得させ、動物資源の高度産業利用や動物資源に関連した食料・環境問題の解決に携わる専門性、社会性、国際性を備えた人材を組織的に養成する。
	水産科学分野	海洋の生物生産や海洋生命科学、並びに海洋環境に関する基礎及び専門的知識と技術を修得させると共に、本分野における課題設定能力と国際性を修得させ、水産資源の管理・生産及び利用産業、国内外の水産食料問題や海洋環境問題の解決に携わる人材を組織的に養成する。
21世紀プログラム		21世紀プログラムは、既存の学部学科の枠組を超えた幅広い視野を持ち、問題発見・課題設定とその解決能力を有する、専門性の高いゼネラリストの育成を行うことを目的として、教員の個別指導を中心に、学部横断型の教育を行う。